

都市部における災害に強く、歩行者が安全で安心して通行できる基盤整備(防災・安全)

群馬県の現状

群馬県では、緊急輸送道路や主要駅周辺等で電線類地中化を進めてきたが、無電柱化率はまだ低く、整備は立ち遅れているのが現状である。また、避難場所までの歩道が狭く、歩行の安全性が確保されておらず、災害時の安全性に懸念のある箇所がある。

課題

都市部において、電線類地中化や歩道整備が行われておらず、日常や災害時の安全性が確保されていない箇所があり、安全で安心して暮らせる地域づくりの支障になっている。

目的

都市部において、災害に強く、歩行者が安全で安心して通行するための道路整備を実施することにより、安全で安心して暮らせる地域づくりに寄与する。

事業の指標

指標①：安全で安心な通行ができる歩道が設置された道路延長
・災害に強いまちづくりとして電線類地中化が行われた道路延長

Σ(歩道整備が実施された道路延長(うち電線類地中化が行われた道路延長))
(単位: km)

指標②：歩行者の安全性が向上した小学校数

Σ(歩道整備が実施された道路延長(うち電線類地中化が行われた道路延長))
(単位: km)

成果と達成度報告

指標①歩道が整備された道路延長
(うち電線類地中化が行われた道路延長)

現況: 0m(H25) ⇒ 最終目標: 5.8(4.0)m(H29)
⇒ 最終実績: 5.8(2.8)m(H29)

- ・歩道の整備延長は、最終目標を達成し、安全性の向上が図れた。
- ・電線類地中化の整備延長は、用地買収の遅れ等により、事業完成が遅れたため、平成29年時点では最終目標が達成できなかった。

指標②歩道整備により、歩行の安全性が向上した小学校数

現況: 0校(H25) ⇒ 最終目標: 7校(H29)
⇒ 最終実績: 7校(H29)

- ・歩道整備により、歩行の安全性が向上した小学校数は、最終目標を達成した。

今後の方針

- ・歩道が整備された道路延長や歩行の安全性が向上した小学校数は、平成29年に本計画における最終目標を達成した。
- ・しかし、電線類地中化が行われた道路延長は平成29年時点では最終目標を達成できなかったため、引き続き、「都市部における災害に強く、歩行者が安全で安心して通行できる基盤整備2期(防災・安全)」計画において、災害に強く、歩行者が安全で安心して通行できる道路整備を実施し、安全で安心して暮らせる地域づくりを図っていく。

都市部における災害に強く、歩行者が安全で安心して通行できる基盤整備(防災・安全)

整備効果事例

事例①（都）敷島公園大師線

■位置図



箇所名：
前橋市荒牧町～青柳町

■整備効果

整備前



片側に狭い歩道しかなく、自転車歩行者のすれ違いが困難であり、安全性に懸念があった。

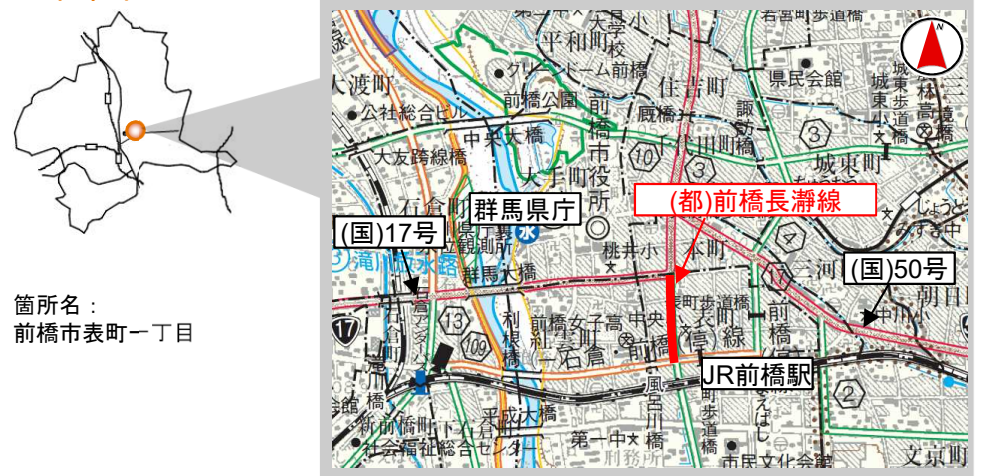
整備後



安心して通行できる歩道が整備され、小学校へ安全に通学することが可能になった。

事例②（都）前橋長瀬線

■位置図



箇所名：
前橋市表町一丁目

■整備効果

整備前



慢性的な交通渋滞の発生や、災害時における電柱転倒の懸念があった。

整備後



渋滞の解消や、無電柱化により災害時の安全性が確保され、災害に強いまちづくりが図られた。